



矢崎グループ設立75周年を迎えて

創業者である矢崎貞美が本格的に事業を開始してから75年。おかげさまで矢崎グループは、多くのステークホルダーの皆様を支えていただきながら、ここまで歩んでくることができました。矢崎グループでは、皆様への感謝とともに、「過去がある、今がある、未来がある」というコンセプトのもと、75周年特設サイトの公開をはじめ、種々の記念活動を行いました。ここでは、そのなかで社外の方々とかかわりの深い2つの活動をご紹介します。



当社の歴史や先達の想いをまとめた特設サイトは、ホームページ、または下記URLよりご覧いただけます。

<http://www.yazaki-group.com/75th/>

矢崎百年の酒プロジェクト

大分県佐伯市で米焼酎づくりに挑戦しました。これは、現地で活動する当社の農業法人「アローファーム大分」の米を使った酒づくりで、地元の老舗酒蔵「ぶんご銘醸」、そして地域社会の皆様のご指導とご協力により、実現しました。

田植えから、秋の収穫、そして焼酎づくりまでの計6回の作業には、当社の従業員がボランティアで参加。慣れない作業に地元の皆様からご指導いただきながら汗を流しました。また、毎回、作業の合間には、佐伯市の職員の皆様とともに市内の清掃を行いました。

こうして2016年3月、ついに地域社会と当社の想いの結晶ともいえる米焼酎「百年の酒」が完成しました。醸造した半数にあたる約2,000本は長期熟成させた上で、当社が

100周年を迎える2041年に開封する計画であり、これが「百年の酒」の由来となっています。



地域の皆様のご指導のもと田植えをする従業員



米焼酎「百年の酒」

ビジュアルブック『おいでよ森へ』を発行

当社は、環境保全に資するさまざまな事業やサービスを時代の要請に応じ、提供してまいりました。この10年余りは、あらゆる「循環」の中心的な役割を担う「森」に着目し、その育成・保全に資する事業に取り組んでいます。

これまでの活動を通じて、いかに「森」が地球環境と人間にとってなくてはならない大切な存在であり、その保全と育成には大変な時間が必要であることを実感しました。そして、今後も豊かな森とその恵みを残すためには、次代を担う子どもたちの世代に、この思いを引き継いでいかなければならないという想いに至りました。

このような想いから、75周年を機に、子どもたちに「森の

素晴らしさを知ってもらうこと」と、そして「森を楽しんでもらうこと」をコンセプトに、写真やイラスト、詩、またはマンガまで、さまざまな要素からなるビジュアルブックを制作・上梓しました。社内外の方を問わず、少しでも多くの方々にこの本をお読みいただけたらと願っています。



ビジュアルブック『おいでよ森へ』